

Title	基研25周年記念シンポジウムに参加して
Author(s)	
Citation	物性研究 (1978), 31(3): 197-197
Issue Date	1978-12-20
URL	http://hdl.handle.net/2433/89740
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

基研 25 周年記念シンポジウムに参加して

基礎物理学研究所創立 25 周年の記念シンポジウムが、11月7・8日の両日基研において行われた。このシンポジウムは、15周年と20周年の際に開かれたものに続く第3回である。シンポジウム報告は前回と同様に基研から刊行される予定で、^{*}これには各講演者の書かれた講演要旨と討論の記録が掲載される。「物性研究」では、これとは別に物性研究者の目で見えたシンポジウムの印象を分野別に三人の方々にお願いして書いていただいた。

シンポジウムのプログラムは次の通りである。

I. 素粒子

弱電磁相互作用のゲージ理論	藤川和男 (東大・核研)
ストリング模型とバリオンウム	井町昌弘 (九大・理)
漸近自由場理論と高エネルギー素粒子反応	牟田泰三 (基研)
QCDとクォークの閉じ込め	小林誠 (京大・理)

II. 宇宙

宇宙現象と素粒子物理	佐藤勝彦 (京大・理)
------------	-------------

III. 原子核

高密度核物質	安野愈 (名大・理)
重イオン間相互作用と原子核の高励起状態	阿部恭久 (基研)
転移領域核の励起構造	
—モード・モード結合—	松柳研一 (京大・理)

IV. 物性

熱力学的に安定でない系の統計物理	川崎恭治 (九大・理)
非平衡系における巨視的な秩序形成	蔵本由紀 (京大・理)
ランダム系の統計物理学	米沢富美子 (基研)

^{*} このシンポジウム報告の入手を希望される方は、京大基研・共同利用事務室に問い合わせられるとよい。